

## 「第8回児童生徒の平和に関する図画・作文コンクール」 講評

### 図画の部

今回の応募点数は小学校が1022点、中学校が6点、合計1028点で、小学校は去年より増えましたが中学校は逆に減ってしまいました。中学校の頑張りを期待します。

審査については、下記の観点で進めました。

#### 1 趣旨と内容の観点から

① 趣旨：戦争と平和について考えると共に、平和を尊ぶ心を育む機会とする。

② 内容：沖縄戦について直接体験者から聞いたり、映画を見たり、本などを読んで感じたことを自由に描く。小学校低・中学年（1年生～3年生）は、身近な生活の中での平和や共生、人権教育の視点による作品も含める。

#### 2 美術的な観点から

③ 色づかひや形のとりかた、画面構成、そして発達段階にふさわしい表現になっているか。

上記①、②、③を総合的に鑑みて審査を進めました。その結果、小学校で、読谷村長賞1点、教育長賞3点、優秀賞30点、入選30点、中学校で、教育長賞1点、優秀賞1点、入選4点が決まりました。

#### 総評

①については、ほとんどの児童生徒がよく理解しているように思われましたが、②については、高学年の沖縄戦についてのモチーフが少なかったのは残念な気がしました。③の、発達段階にふさわしい表現かどうかについては概観的にはそれが感じ取れますが、学校によっては逆転しているように思われるのもありました。つまり、《上の学年より下の学年の方がうまく描けている》ように思える作品があったということです。クラスによっては色使いや形のとりかたがほとんどの児童が同じパターンに感じられ、《個性的とは何か》について妙に考えさせられたりしました。先生や大人の指導をどの程度までやればよいのか、アドバイスをどの程度まで押さえ個性を尊重すればいいのか、いろいろと考えさせるところもありました。次に村長賞、教育長賞について講評します。

#### 村長賞 小学校

##### 上村菜希 「平和と戦争のちがひ」 古堅小学校6年2組

少女の体を真ん中から左右に分け、右側を暗いトーンで戦争に関する様子を描き、左側を明るい色で平和な様子を描いたところがステキなアイデアで素晴らしいと思います。趣旨や内容もよく理解されていて色や形、画面構成もしっかりしていて6学年にふさわしい作品に仕上がっています。

#### 教育長賞 小学校

##### 比嘉菜穂 「世界の平和を守る」 喜名小学校6年3組

左上の戦争の醜さ、右上の平和の礎、中央左右にシンボルのハト、画面下半分に描いたいろんな人種の笑顔、実にうまく表現されています。コンクールの趣旨や内容をよく吟味し、それを色や形、そして画面構成で立派にまとめた作品です。人物のプロポーション、そして色彩、いいですね。

##### 瑞慶覧花衣 「平和を考えて」 喜名小学校2年2組

花衣さんの作品で特にすぐれているところは色使い・色彩感覚ですね。画面中央部分の左側から右側へむらさき→濃いピンク→明るいピンクと変化しているところと、画面上部の水色から緑へ変化しているところは色相のグラデーションといって心地よい感じを与えます。まさに平和な感じ！

##### 金城祐諒 「あたまでなで うれしいな」 喜名小学校 4年2組

画面構成はシンプルではあるがそのゆるやかな動きはとても見る人をひきつけます、二人のやさしそうなお表情もこちいいですね。バックの黄色、服装のだいたい、きみどり、ピンクなどの色の組み合わせも明るくてあたたかい感じがしていい。画面全体から人のぬくもりが伝わってきますね。

#### 村長賞 中学校 該当者なし

#### 教育長賞 中学校

##### 吉見千夏 「人の手で断ち切ろう血に塗られた悲劇」 読谷中学校1年3組

全体的に淡彩描法で仕上げた作品のため一見パーッと激しく迫ってくるのではないですが、悪い流れを断ち切る赤いハサミは、逆によく目立つような仕掛けになっています。慰霊の日に咲くゲットウや平和のシンボル・鳩なども描かれていて、よくよく見ると含蓄のある作品になっています。

（審査員：与久田健一、喜友名小百合）